(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3160519号
(U3160519)
(45)発行日　平成22年7月1日(2010.7.1)　(24)登録日　平成22年6月9日(2010.6.9)

(51)Int.Cl.　F I
A01G 9/02 (2006.01)　A01G 9/02 101F

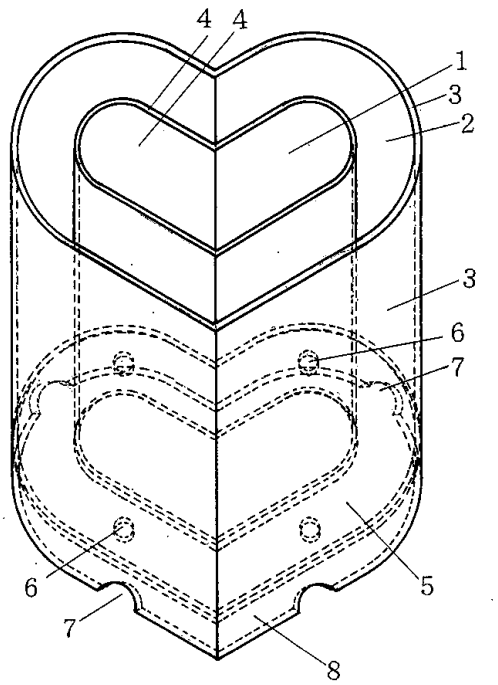
評価書の請求 未請求　請求項の数 3　書面　(全 6 頁)

(21)出願番号　実願2010-1184(U2010-1184)
(22)出願日　平成22年2月5日(2010.2.5)

(73)実用新案権者　000123804
加藤　丈夫
兵庫県西宮市津門西口町４－７－３０１
(72)考案者　加藤　丈夫
兵庫県西宮市津門西口町４－７－３０１

(54)【考案の名称】周形植木鉢

(57)【要約】　(修正有)
【課題】草花を種々の形状に植えることができる植木鉢を提供する。
【解決手段】植木鉢の植込面を種々の周形意匠で成して、全形を中空１の筒状周形鉢とする。また、全形を中空１の筒状周形とせず、逆に内側面４をせり出した上、中空１部適当位置に底面５を付けて、中空１部を溝周鉢２より一段高い上段鉢９に成して、全形を二段鉢の周形植木鉢にしたり、その周形植木鉢を多数個積み重ねて、多段鉢にした周形植木鉢にすることもできる。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
植木鉢の植込面を種々の周形意匠で成して、全形を中空１の筒状周形鉢としたもので、それにより必然的に、植え込み鉢部が、前記周形意匠形の溝周鉢２となる周形植木鉢。
【請求項２】
全形を中空１の筒状周形鉢とせず、逆に内側面４をせり出した上、中空１部適当位置に底面５を付けて、中空１部を溝周鉢２より一段高い上段鉢９に成して、全形を二段鉢にした周形植木鉢。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、草花を植える植木鉢に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
草花を植えええる場合、鉢状の植木鉢に植え込んでいた。
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００３】
従来の植木鉢は、様々な外観・形の鉢状のものがあるが、草花の植え込み自体は、どれも適当に植え込むだけものである。そこで、種々の意匠形植込面の周形植木鉢にする事により、前記意匠形に植え込みした形の植木鉢を得られ、前述の欠点を解決しようとするものである。
【課題を解決するための手段】
【０００４】
本考案は、植木鉢の植込面を種々の周形意匠で成して、全形を中空１の筒状周形鉢としたもので、それにより必然的に、植え込み鉢部が、前記周形意匠形の溝周鉢２となる周形植木鉢で、また全形を中空１の筒状周形鉢とせず、逆に内側面４をせり出した上、中空１部適当位置に底面５を付けて、中空１部を溝周鉢２より一段高い上段鉢９に成して、全形を二段鉢にした周形植木鉢にすることによっても、問題を解決している。
【考案の効果】
【０００５】
上述のように、種々の意匠形植え込み面の植木鉢なので、意匠美効果が得られる上、周形の溝周鉢２に植えるため、根や葉や花が密集せず均一になり、美観や育成効果がある。また、中空１の分だけ土の量を少なくでき、経済性と軽量化を図れる効果があり、中空１に上段鉢９を成すものは、立体的花壇にできる効果がある。
【考案を実施するための最良の形態】
【０００６】
内側面４・外側面３・底面５により、草花を植え込める、中空１ハート形の溝周鉢２を成すことで、その溝周鉢２に植え込まれた草花は、必然的にハート形配列の植え込み形となり、植木鉢全体が、ハート形に植わった、筒状周形のハート形周形植木鉢と成るものである。そして、底面５に適当位置・数・形で空気・水はけ穴６を開けた上、外側面３の下端に、鉢足８を適当高で延長して、適当位置・数・形で空気・水はけ通し７を切り込み、両者で通気と排水ができるものである。
【実施例】
【０００７】
また、中空１を擁した溝周鉢２とせず、逆に内側面４を高くしてせり出した上、中空１の適当位置に底面５を付けて、中空１部を溝周鉢２より一段高い上段鉢９に成して、全形を二段鉢にした、種々の意匠形植込面の周形植木鉢にすることもでき、そして種々の意匠形植込面としては、ハート形・ドーナツ形・花形・三角形・四角形・多角形等が考えられ、それら意匠形の周形植木鉢ができる。また鉢足８は、外側面３下端に延長して付けずに

、底面５下に適当位置・数・形で付けても良い。さらに、プラスチック・陶器の一体成型による製造で、外側面３に自由な装飾レリーフ模様・文字等を加えて施すこともできる。なお、製造方法としては、周形植木鉢全体を若干下窄みにした形にして、多数個積み重ねられるようにするのが一般的である。

【図面の簡単な説明】

【０００８】

【図１】　本考案の周形植木鉢の一実施例を示す斜視図である。

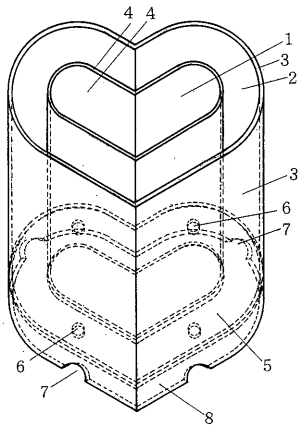
【図２】　中空１に上段鉢９を成し二段鉢にした、本考案の周形植木鉢の一実施例を示す斜視図である。

【符号の説明】

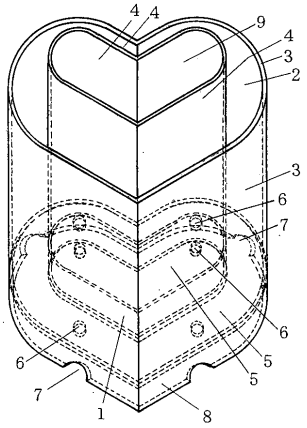
【０００９】

１　中空
２　溝周鉢
３　外側面
４　内側面
５　底面
６　空気・水はけ穴
７　空気・水はけ通し
８　鉢足
９　上段鉢

【図１】



【図２】



【手続補正書】
【提出日】平成22年2月26日(2010.2.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲
【補正対象項目名】請求項３
【補正方法】追加
【補正の内容】
【請求項３】
請求項２に記載の周形植木鉢を、多数個積み重ねて多段に組んだ周形植木鉢。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
本考案は、植木鉢の植込面を種々の周形意匠で成して、全形を中空１の筒状周形鉢としたもので、それにより必然的に、植え込み鉢部が、前記周形意匠形の溝周鉢２となる周形植木鉢で、また全形を中空１の筒状周形鉢とせず、逆に内側面４をせり出した上、中空１部適当位置に底面５を付けて、中空１部を溝周鉢２より一段高い上段鉢９に成して、全形を二段鉢にしたり、それを多数個積み重ねて、多段に組んだ周形植木鉢にすることにより、問題を解決している。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
また、中空１を擁した溝周鉢２とせず、逆に内側面４を高くしてせり出した上、中空１の適当位置に底面５を付けて、中空１部を溝周鉢２より一段高い上段鉢９に成して、全形を二段鉢にした、種々の意匠形植込面の周形植木鉢にしたり、その周形植木鉢を多数個、それぞれ上段鉢９の天部を、鉢裏から別の上段鉢９底裏に差し込んで、積み重ねて多段に組んだ、周形植木鉢にすることもできる。そして、種々の意匠形植込面としては、ハート形・ドーナツ形・花形・三角形・四角形・多角形等が考えられ、それら意匠形の周形植木鉢ができる。また鉢足８は、外側面３下端に延長して付けずに、底面５下に適当位置・数・形で付けても良い、さらに、プラスチック・陶器の一体成型による製造で、外側面３に自由な装飾レリーフ模様・文字等を加えて施すこともできる。なお、周形植木鉢は、若干上か下窄みの全形にすることにより、多数個積み重ねられるようにしている。
【手続補正書】
【提出日】平成22年4月12日(2010.4.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
植木鉢の植込面を周形にした植木鉢。
【請求項２】
周形の植込面の内側に底面を設け、当該底面に周囲よりも一段高い、上段鉢を設けたことを特徴とする、請求項１記載の植木鉢。

【請求項３】
請求項２記載の植木鉢を、当該上段鉢部で多数個積み重ねたことを、特徴とする植木鉢。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、草花を植える植木鉢に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
草花を植える場合、鉢状の植木鉢に植え込んでいた。
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００３】
従来の植木鉢は、様々な外観・形の鉢状のものがあるが、草花の植え込み自体は、どれも鉢中にまばらに植え込むことしかできない。そこで種々の周形植込面にした鉢にすることにより、周形配列に植えられ植木鉢が得られるようにして、前述の欠点を解決しようとするものである。
【課題を解決するための手段】
【０００４】
本考案は、植木鉢の植込面を周形にした植木鉢であるが、前記周形の植込面の内側に底面を設け、当該底面の周囲よりも一段高い上段鉢を設けた植木鉢にしても良く、さらにその植木鉢を、当該上段鉢部で多数個積み重ねた植木鉢にしても良く、これらにより問題を解決している。
【考案の効果】
【０００５】
上述のように、種々の周形植木鉢なので、周形の植込配列美効果が得られる上、周形に植え込むため、根や葉や花が密集せず、均一間隔になり育成効果がある。また周形による中空の植木鉢なので、中空分土の量を少なくでき、経済性と軽量化を図れる効果があり、上段鉢を成す植木鉢は、立体的花壇にできる効果がある。
【考案を実施するための最良の形態】
【０００６】
内側面４・外側面３・底面５により、ハート形の植込面をした溝周鉢２を成して、中空１の周形植木鉢を構成しているので、その溝周鉢２内に植え込まれた草花は、必然的にハート形配列植え込みの鉢全形となるものである。そして、底面５に適当位置・数・形で、空気・水はけ穴６を開けた上、外側面３の下端に、鉢足８を適当高で延長して、適当位置・数・形で空気・水はけ通し７を切り込み、両者で通気と排水が出来るものである。
【実施例】
【０００７】
また、中空１を擁した周形植木鉢とせず、内側面４を高くせり出した上、中空１部の適当位置に底面５を付けて、中空１部を溝周鉢２より一段高い上段鉢９に成して、全形を二段鉢にした周形植木鉢にすることもでき、そしてハート形以外に、ドーナツ形・花形・三角形・四角形・多角形等の周形植木鉢にすることもできる。また鉢足８は、外側面３下端に延長して付けずに、底面５下に適当位置・数・形で付けても良い。さらに、プラスチック・陶器の一体成型による製造で、外側面３に自由な装飾レリーフ模様・文字などを加えて施すこともできる。さらに、一般的製造方法として、周形植木鉢全形が、若干上か下窄

みの形になるので、上段鉢９部で植木鉢を多数個積み重ねた周形植木鉢にすることもできる。

【図面の簡単な説明】

【０００８】

【図１】本考案の周形植木鉢の一実施例を示す斜視図である。

【図２】上段鉢９を設けた、本考案の周形植木鉢の一実施例を示す斜視図である。

【符号の説明】

【０００９】

１　中空
２　溝周鉢
３　外側面
４　内側面
５　底面
６　空気・水はけ穴
７　空気・水はけ通し
８　鉢足
９　上段鉢